

**「臨床検査技師による在宅医療の推進」並びに第 20 回日本在宅医学会(日臨技共同シンポ)
プログラム**

生涯教育研修制度 : 基礎教科 30 点

テーマ	「しっかり知って、携わる」在宅医療
目 的	団塊世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて大きく変わる医療需要と疾病構造の変化へ対応するべく医療供給体制の整備が進められている中で、「在宅医療」の質の確保が求められている。在宅医療の現場で必要とされる臨床検査とは？臨床検査技師に何ができるのか？今回「在宅医の現場において臨床検査(技師)が果たす使命」と題してシンポジウムを日本在宅医学会との合同で開催することになりました。そこで開催前日に日臨技企画として「在宅医療と臨床検査」に関する講習会を開き、在宅医療における臨床検査技師の役割を見つめ、翌日のシンポに臨むという流れ（講習会+日本在宅医学会）の講習会を企画いたしました。在宅医療現の現状と実践そして将来について考える機会としてご活用ください。
会 期	平成 30 月 4 月 28 日（土）、4 月 29 日（日）
会 場	○日本臨床衛生検査技師会館 3 階会議室 4 月 28 日（土） ○グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 4 月 29 日（日）
内 容	●臨床検査技師による在宅医療の推進(日臨技企画) ◎4 月 28 日（土）日臨技会館 13：30～14：00 受 付 (敬称略) 14：00～14：20 開催挨拶 日本臨床衛生検査技師会 代表理事 会長 宮島喜文 14：20～15：20 在宅医療における Evidence と臨床検査（仮） 東京大学在宅医療学拠点 特任准教授 山中 崇 先生 15：20～15：40 在宅医療における超音波検査の活用例 JA 長野厚生連 北アルプス医療センターあずみ病院 佐々木 朝海 先生 〈10 分休憩〉 15：50～17：20 在宅医が臨床検査技師に期待すること（仮） 医療法人八事の森 杉浦医院 森 亮太 先生 18：00～ 意見交換会 ●第 20 回日本在宅医学会学術集会参加(日臨技合同シンポジウム) テーマ 在宅の現場において臨床検査(技師)が果たす使命とは？ ◎ 4 月 29 日（日）グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 9：00 会場各自集合 9：30～11：00 日臨技・日本在宅医学会合同シンポジウム（強制参加） 演者 1：日臨技会長 宮島喜文 演者 2：在宅医 文京根津クリニック院長 任 博 演者 3：厚労省在宅推進室長 松岡輝昌 演者 4：医療法人社団 鴻鵠会 事務局長 宮下勉 〈以降の学会プログラムに関しては自由参加〉 16:00～ 一旦解散（懇親会参加者は継続学会見学） 18：30～ 学会懇親会（終了後随時解散）
参加資格	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 会員 募集人数 60 名
受講料	○臨床検査技師のための在宅医療の推進(日臨技企画参加費 3,000 円と第 20 回日本在宅医学会学術集会事前登録 7,000 円を合わせて 10,000 円) ○旅費、交通費、宿泊費は各自にて負担となります。

主 催	(日臨技企画)一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
後 援	(日臨技企画) 日本在宅医学会
備 考	○本研修会は、4月28日(土)、29日(日)の両日とも参加が必須条件となります。 ○第20回日本在宅医学会学術集会への事前登録は日臨技で一括して行います(3月28日まで応募された方のみ) それ以降は当日参加(9,000円)となります。

The 20th Memorial Meeting of the Japanese Academy of Home Care Physicians

日本在宅医学会

第20回 記念大会

いのちと生活を支える
医療介護多職種チームの使命

病院・行政・市民と
ともに取り組むまちづくり

2018.4.29・30 (日) (月・祝)



一つの大陸から
2億年を経て

現在の大陸が
形成された



next stage?

時とともにニーズは変遷し
医学や技術も日々進歩する
職種や機関の役割も変化する
羅針盤のもとに“進むべき道”を考える

大会長の願い

みなさんはパンゲア大陸のことをご存じでしょうか。2億年前、陸地は大きな一つの大陸で形成されていました。プレートは常に動いており、長い時間を経て、現在では6つの大陸から形成されています。医療や専門職のあり方も、未分化な状況から始まり、徐々に専門性や新たな技術が確立されてきた歴史があります。地域包括ケアが叫ばれる時代となり、今後もニーズの変遷とともに新たな役割やアプローチが必要になるでしょう。10年後までになすべきことに思いを馳せる大会を目指し、第20回記念大会のモチーフにパンゲア大陸と羅針盤を選びました。

生活を支える視点が、地域における在宅医療や介護の現場はもちろんのこと、急性期医療や行政施策にも不可欠だと言われるようになりました。そこで、この大会には病院で診療に当たっている医師

や看護師、地方自治体等で活躍している行政職、そして市民の方々にもご参加いただけるように、病院や行政、地域に関連するプログラムを数多く設けることにしました。以上を踏まえ、大会テーマを「いのちと生活を支える医療介護多職種チームの使命 ～病院・行政・市民とともに取り組むまちづくり～」と設定しました。

会場には、規模の小さな当学会には分不相応な費用を要することを承知の上で、品川に立地するホテルを選びました。例年の1.5倍の数のにぼる企画を、文字通り一つ屋根の下で開催できる大きな会議場が決め手でした。参加者は、高校生時代に戻ったかのように、朝から夕方まで12の会場を渡り歩きながら、発表に耳を傾け、思索や議論を深めることを期待します。結果として、有名人はお招きできませんし、豪華なおもてなしもない質実な大会になります。多くの参加者が来場され、窮屈かもしれません。それでも、「大いに収穫があった」「目から鱗が落ちた」と言って頂ける大会を目指します。医療や介護の現場とともに汗を流している仲間、地域とともに支える病院や行政の方々をお誘いの上、手分けして羅針盤や海図に相当する大会プログラムにご参加ください。次の10年に進むべき進路を見出すことができると思います。みなさまのご参加をお待ちしております。



日本在宅医学会第20回記念大会
大会長 川越 正平
あおぞら診療所 院長

臨床検査技師会合同シンポジウム (案)

テーマ：

在宅の現場において臨床検査 (技師) が果たす使命とは？

開催日時：平成30年4月29日 (日曜日) 9時30分より (90分間)

開催場所：グランブザリンスホテル新高輪 国際館パミール

座 長：山中 素先生 (東京大学医学部在宅医療学拠点)

小野宏志先生 (坂の上フアミリークリニック)

演者1：宮島喜文 (日臨技会長：参議院議員)

演者2：任博先生 (在宅医：文京根津クリニック院長)

演者4：松岡輝昌 (厚労省在宅医療推進室長)

演者3：宮下勉先生 (医療法人社団 鴻鵠会 事務局長)

シンポジ概要：

演者1、2及び3を20分、演者3を15分の口演とし残り15分でデイスカッション
当会の宮島には日臨技の立場から、任先生には実際の現場で臨床検査技師を活用して
いる在宅医の立場から、厚労省松岡先生には日本の在宅医療の現状を、宮下先生には
臨床検査技師として事務長としての立場からお話をいただき、在宅における臨床
検査と臨床検査技師の果たす使命を探るシンポジウムとさせていただきます。